

新型タバコの危険性

電子タバコや加熱式タバコと呼ばれる新型タバコが登場し、健康被害の少ないタバコとして普及しつつあります。このシリーズでは、日本タバコフリー学会の副代表理事を務める本会健康支援センター長の金子昌弘医師が、新型タバコとはどういうものか、またその危険性について3回にわたり連載します。

第1回

新型タバコの種類とそれぞれの特徴

新型タバコとは

紙巻きタバコの煙にはニコチンの他にも多量の有害成分を含むため、喫煙者本人の健康被害だけではなく、周囲の人にも悪影響を及ぼす受動喫煙が問題になっています。

タバコの値上げや喫煙場所の制限などで喫煙率は低下していますが、これに歯止めをかけるためにメーカー側も各種の新型のタバコ

◎タバコ及び関連製品一覧

製品名等	タバコの葉	燃焼	ニコチン
従来型タバコ	紙巻き、葉巻き、パイプ、キセル、水タバコ	あり	含む
	嗅ぎタバコ、噛みタバコ	なし	含む
新型タバコ	加熱式タバコ	使用	含む
	アイコス、グロウ、ブルーム・テック		
	電子タバコ	非使用	日本では原則含まず
	パイプ、電子パイポ		

製品や類似商品を発売しています。

新型タバコの種類、どのような成分が含まれているのか、また新型タバコで禁煙は可能なのかについて、3回に分けて解説します。

タバコの葉を使用している製品

タバコの葉を使用する製品には、紙巻きタバコ以外にも葉巻やパイプ及びキセル用の刻みタバコがあります。また、タバコの葉を粉末状にして鼻から直接吸い込む「嗅ぎタバコ」や、板状に固めてガムのように使用する「噛みタバコ」なども一部の国では販売されています。一方、タバコの葉を比較的低温で加熱しその蒸気を吸う加熱式タバコは、2015年にフィリップ・モリスからアイコス、その後ブリテッシュ・アメリカン・タバコはグロウ、日本たばこ産業はブルーム・テックという商品名で、日本を中心に発売しています。

方式は各メーカーで異なりますが、実際のタバコの葉を加工して固めたものを専用の器具で加熱して、その蒸気を吸い込む方式にな

っています。燃焼はしないので一酸化炭素は発生せず、タールも少ないようですが、各種の香料などは含まれ、ニコチンは一般の紙巻タバコと同様に含まれています。

タバコの葉を使用しない製品

2014年頃から、紙巻タバコ程度の大きさで、吸い口をくわえて吸い込むと先端がLEDで赤く光り、同時に各種の香料の入った蒸気を吸い込むことができる製品が中国で製造されました。

タバコの葉を使用していないので厳密にはタバコではありませんが、喫煙しているような感覚を味わうことができるため「電子タバコ」あるいはパイプという名称で主に欧米で普及しており、日本では電子パイポという製品も販売されています。

日本国内で販売されている製品にはニコチンが含まれないことになっていますが、欧米で販売されている製品にはニコチンが含まれ、一部では大麻が含まれているものもあります。



[執筆者]
金子昌弘 (かねこまさひろ)

公益財団法人東京都予防医学協会 健康支援センター長
1970年慶應義塾大学医学部卒業、日本鋼管病院内科、国立がんセンター病院レジデント、北里大学医学部放射線科講師、国立がんセンター中央病院内視鏡部長を経て2011年に定年退職。同年、本会呼吸器科部長に就任。2015年より本会保健会館クリニック所長、2017年から現職。日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会指導医、肺がんCT検診認定機構認定医などの資格を持つ。特定非営利活動法人タバコフリー学会の副代表理事を務める。